

# JR東海労ニュース

No.1411

2010年3月10日

JR東海労働組合

**2010JR春闘シリーズ ⑤**

## 会社の回答は認められない！ 団交に踏まえ社員の声に応えろ！

本部は、3月10日「2010年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れ」に基づき第4回の団体交渉を行いました。今回は、前回の議論に引き続き、休日出勤の早期解消、20日の年休取得の要員配置や保存休暇の使用条件の改善などについて議論を行いました。今回で2010年春闘における団体交渉が終了しました。

休日出勤について、会社は「来年度は3泊程度発生する」と回答し、2004年に休日出勤がはじまって以降「早急に解消するスタンスに変わりはない」と回答し続けています。しかし、いまだに解消していません。しかも、3月13日のダイヤ改正で、新幹線の運輸区では臨時列車が減ることを理由にして基準要員を大幅に削減しているのです。本部は、基準人員の拡大と業務量に合った要員の確保を強く要求してきました。

また年休取得と失効年休の買い上げについて、会社は「年休取得の要員確保に努力する」「買い上げる考えはない」と回答しました。しかし、2001年10月に新幹線職場が運輸所になって以降、年休取得が困難な状況になり、現状は改善されるどころかより取得が困難になっているのです。会社が「要員確保に努力する」と言い続けている一方で、年休失効者数が拡大しているのが現実であり、年休の買い上げを強く要求しました。会社はこの要求に対し全く聞き入れる姿勢を示しませんでした。

本部は団体交渉終了に当たり、この間4回に渡る交渉・議論を真摯に受け止め、さらに社員の努力に応えるためにも、組合の要求に答える回答を行うよう強く要求しました。

今後も職場からの闘いを基礎に、要求実現に向けて向けて奮闘していきましょう。

**反弾圧・国政春闘を全力で闘おう！**